

平成 21 年 6 月 16 日現在

研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18592411
 研究課題名(和文) 都市部と農村部における一人暮らし高齢者に対する自立支援プログラムの効果評価
 研究課題名(英文) Effects of community health nursing program to maintain independence for elderly people living alone between an urban and a rural community.

研究代表者
 田高 悦子 (TADAKA ETSUKO)
 横浜市立大学医学部・教授
 研究者番号：30333727

研究成果の概要：

研究目的は、地域における独居男性高齢者に対する支援の一方策として、独居高齢者のセルフケアの自立ならびに地域との交流に関する動機付け並びにそれらを見守る地域のネットワークづくりを意図した地域ケアプログラムを開発し、評価することである。研究の結果、同プログラムは、独居男性高齢者における地域とのつながりに対する「重要度」「関心度」の認知（動機付け）に一定の意義を有することを明らかとした。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	700,000	0	700,000
平成 19 年度	900,000	270,000	1,170,000
平成 20 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	810,000	4,210,000

研究分野： 医歯薬学

科研費の分科・細目： 看護学 ・ 地域・老年看護学

キーワード： 高齢者、一人暮らし、自立支援、地域、ケアプログラム、介入研究

1. 研究開始当初の背景

わが国の一人暮らし高齢者数は、一貫した増加を続けている。報告(総務省, 2003)によるその数は、1994年には、186.5万人(65歳以上世帯に占める割合 15.7%)であったが、

2004年には、373.0万人(同 20.9%)となり、さらに、2015年には、566.4万人(同 32.3%)に達することが予測(国立社会保障・人口問題研究所, 2003)されている。急増するこ

の一人暮らし高齢者の支援が、わが国の超高齢社会対策の推進上、最重要課題の一つであることは明白である。

最新の調査（内閣府，2004）によれば、一人暮らし高齢者のうち、「自分の健康状態を良くないと感じる者」は 29.3%、「日常生活での不安のある者」は 41.2%、「身近な社会活動に参加していない者」は 54.7%に上るなど、一人暮らし高齢者が保健予防上のニーズを有する対象であることは明らかである。一人暮らし高齢者が住み慣れた地域で、安定した日常生活を継続するためには、その自立性を維持しながら、身体的、心理的、社会的機能の低下を最大限に予防するような積極的支援が必要である。

ところで、一人暮らし高齢者の自立支援を具体的に検討していくときには、高齢者自身の自立の意味や考え方、生活習慣、文化的背景等が、地域によって異なることがあり、それらを勘案することも重要である。農村部の一人暮らし高齢者は、若者層の流出等により今後も引き続き進展することが推計されている。また、都市部の一人暮らし高齢者は、家族との別居形態の浸透等により急増することが推計されている。

以上より、本研究は、地域の2類型「都市部」と「農村部」に着眼し、各々における一人暮らし高齢者の自立支援に向けたプログラムの開発と効果評価を目的とした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「都市部」と「農村部」における一人暮らし高齢者の自立支援に向けたプログラムの開発と効果評価を行うことである。

3. 研究の方法

本研究は3カ年事業である。初年度は、まず、「都市部」と「農村部」に着眼し、文献

検討ならびに各々における独居高齢者を対象としたニーズ調査を実施した。

また、次年度は、独居高齢者ならびに地域の保健医療福祉専門職を対象としたニーズ調査ならびにプログラム開発に向けた情報の検討を行った。

さらに、最終年度は、それらの成果に基づき試案プログラムを開発し、各モデル地域において介入プログラムを実施し、その効果評価を実証的に検討した。

なお、本研究では、研究計画を初年度については、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会において、また次年度以降については、横浜市立大学医学部研究倫理審査委員会においておのおの倫理審査承認を得て実施された。

4. 研究成果

都市近郊農村地域Y地区と都市的地域O地区に居住する65歳以上の独居男性高齢者計22名及び地区活動推進委員の役割を担う地域住民計12名を対象として、初年度ならびに次年度から得られた地域と独居高齢者のニーズに鑑み開発された独居高齢者の自立支援に向けた地域ケアプログラム（高齢者における心の健康づくり、身体の健康づくり（食と栄養）、地域交流）について介入研究により評価した。

その結果、アウトカム評価については、独居高齢者における地域とのつながりに対する「重要度」・「関心度」について有意な改善がみられた。また、プロセス評価については、独居高齢者における心情と地域住民との関係づくり、食事・栄養バランスのとれた献立づくり、独居高齢者が住みやすい地域づくりについての具体的な振り返りや示唆を得る対象主体の学習の機会となることが確認された。

これより、独居高齢者のセルフケアの自立

ならびに地域との交流に関する動機付け並びに見守りのネットワークづくりを意図した地域ケアプログラムは、地域における独居男性高齢者支援策として一定の意義を有することが示唆された。

本研究の学術的特色ならびに独創性は、独居高齢者の高次の自立支援に向けたニーズを明らかにし、さらにその方策を実証的に明示したところに有している。具体的には、ニーズの切り口として、セルフケアと地域交流に着眼してこれを明らかにするとともに、その方策を一人暮らし高齢者の生活の根拠地（都市部と農村部）の特性も加味してプログラムとして開発し、その評価を実証的に検討した点にある。今後は、プログラム及び評価法の一般化が課題である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 6 件）

- ① 国井由生子、田高悦子、河野あゆみ、岡本双美子、山本則子：地域特性からみた一人暮らし男性高齢者の自立支援ニーズの検討（第1報）：地域特性. 第67回日本公衆衛生学会総会、2008年11月6日. 福岡
- ② 岡本双美子、河野あゆみ、田高悦子、国井由生子、山本則子：地域特性からみた一人暮らし男性高齢者の自立支援ニーズの検討（第2報）：対象の特性. 第67回日本公衆衛生学会総会、2008年11月6日. 福岡
- ③ 河野あゆみ、田高悦子、山本則子、岡本双美子、国井由生子：地域特性からみた一人暮らし男性高齢者の自立支援ニーズの検討（第3報）：セルフケア. 第67回日本公衆衛生学会総会、2008年11月6日. 福岡
- ④ 田高悦子、国井由生子、河野あゆみ、岡

本双美子、山本則子：地域特性からみた一人暮らし男性高齢者の自立支援ニーズの検討（第4報）：地域交流. 第67回日本公衆衛生学会総会、2008年11月6日. 福岡

- ⑤ Tadaka E., Kono A., Yamamoto-Mitani N., Kunii Y., Okamoto F.: Health needs of Japanese Male Elderly who are living alone: A comparison between urban and rural community, The 1st Korea-Japan Joint conference on Community Health Nursing, Nov.22, 2007. Korea

- ⑥ 田高悦子、河野あゆみ、山本則子、岡本双美子、国井由生子：都市部と農村部の一人暮らし高齢者における自立支援プログラムの開発に向けた基礎的研究, 第27回日本看護科学学会, 2007年12月8日. 東京

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田高 悦子 (TADAKA Etsuko)
横浜市立大学・医学部・教授
研究者番号：30333727

(2) 研究分担者

河野 あゆみ (Kono Ayumi)
大阪市立大学・看護学研究科・教授
研究者番号：00313235

(3) 連携研究者

山本 則子 (Noriko Yamamoto)
東京医科歯科大学大学院・保健衛生学研究科・教授
研究者番号：90280924

岡本 双美子 (Okamoto Fumiko)
大阪市立大学・医学部・講師
研究者番号：40342232

(4) 研究協力者

国井 由生子 (Kunii Yuuko)
横浜市立大学・医学部・助手
研究者番号：80376417

藤田 俱子 (Fujita Tomoko)

大阪市立大学・看護学研究科・講師
研究者番号：00453134

水野 智実 (Mizuno Tomomi)
大阪府立大学・看護学部・助教
研究者番号：70438240